



平成14年8月15日

新生銀行

メロン・フィナンシャル・コーポレーション

新生銀行、メロン・フィナンシャル・コーポレーションと提携 年金市場で資産運用サービスを提供

メロン・フィナンシャル・コーポレーション(以下「メロン」)と株式会社新生銀行(以下「新生銀行」)は、監督官庁の認可等取得を条件に、日本の年金市場において資産運用サービスを提供する新たな合弁会社(“JV”)を設立することで合意いたしました。

新生銀行とメロンは、JVにそれぞれ50%の出資を行い、JVは、主として日本の公的および私的確定給付年金の海外資産運用についてグローバルなサービスを提供いたします。JVは東京に本社を置き、2002年度後半の開業を目指します。

新生銀行は、日本の企業および公的セクターの幅広い顧客へのアクセス、強力なリレーションシップを有しています。一方、メロン・グループは世界で16の資産運用子会社を保有、全米6位、全世界14位の資産運用規模を有しており、それぞれの資産クラスで最も優れた運用ノウハウと、オルタナティブ投資商品も含む様々な運用商品を提供しています。

日本の年金市場は約270兆円にのぼり、そのうち投資顧問会社の占めるシェアは13%、約35兆円と推計されています。さらに、市場は2005年まで年率12%で拡大すると予想されています。

JVは、日本の年金市場において、両社の強みを活かし、日本の年金基金の幅広いニーズに的確にお応えする資産運用サービスを提供してまいります。

本件合意にあたって、新生銀行社長の八城政基は以下のように述べています。「メロンと新生銀行の2社が、お互いの強みを活かし、日本の年金市場に共同でサービスを提供することとなり、喜ばしく思います。私どものスキルと経験は、日本の投資家の皆さまの資産運用に重要な役割を果たすことができると確信しています。」

また、メロン・フィナンシャル・コーポレーション会長兼CEOのマーティン・マックギンは以下のようにコメントしています。「日本の年金市場は、ますます質の高いグローバルな運用能力が求められています。メロンはその期待に応えられる広範な商品選択肢を提供することができます。私どもは新生銀行との提携を心よりうれしく

思っております。 Mellonにとって日本市場は重要であり、新生銀行との提携を最大限に活かし、 Mellonの優れた運用能力と新生銀行の堅固な取引基盤を融合し、よりいっそう効果的に成果を上げることができると思います。」

なお、このJVとは別に、すでに営業を行っている Mellonの資産運用子会社 Mellon・グローバル・インベスツメント・ジャパン(株)は、引き続き主として日本の投資信託及び年金を除く機関投資家マーケットにおいて資産運用サービスの提供を行ってまいります。

Mellon・フィナンシャル・コーポレーションの概要

Mellon・フィナンシャル・コーポレーション(www.mellon.com)は、米国ピッツバーグに本社をおく、グローバルな金融機関で、機関投資家、企業および富裕層の個人に対して、アセットマネジメント、投資信託、資産管理、人事管理サービス、財務サービス等を提供しています。カストディーを含む総預かり資産は約2.8兆ドル、うち運用資産は5,880億ドル。グループには、ドレイファスコーポレーション(米国)、ニュートンインベストマネジメント(英国)等があります。

新生銀行の概要

新生銀行(www.shinseibank.co.jp)は、欧米の一流金融機関等の出資による初めての日本の銀行として、金融サービス業界の革新をリードしていきます。長年にわたるお客様との取引関係をテコに、新しい企業カルチャーをもって、投資銀行業務・リテール銀行業務において新しいスタンダードを築き、お客様のニーズに最も適切に応えてまいります。新生銀行は、最新のテクノロジーを使った利便性の高いリテール銀行業務から、企業向けには証券化・スペシャルティファイナンス・ローンシンジケーション・企業アドバイザー・アセットマネジメント・金融マーケット商品まで、多岐にわたる商品サービスを提供してまいります。